

AUTOMATIC DIAL OR ABBREVIATED DIAL SYSTEM

Patent Number: JP60116259
 Publication date: 1985-06-22
 Inventor(s): AKIYAMA TADAHICO
 Applicant(s): NITSUPOU TSUUSHIN KOGYO KK
 Requested Patent: ☐ JP60116259
 Application Number: JP19830210930 19831111
 Priority Number(s):
 IPC Classification: H04M1/274
 EC Classification:
 Equivalents: JP1668721C, JP3026584B

Abstract

PURPOSE: To use an automatic dial or an abbreviated dial code set by the own device even if any kind of a terminal device is used by using a portable storage device storing personal information.
CONSTITUTION: An individual identification code, an automatic dial code or an abbreviated dial code set by the possessor is stored in a portable storage device, e.g., a magnetic card 1-3. The magnetic card 1-3 is mounted onto a terminal device such as an automatic dial device or a telephone set and the content of the magnetic card 1-3 is inputted to the terminal device. Thus, even if any kind of terminal devices is used, the possessor calls an opposite party by using the automatic dial or abbreviated dial set by the possessor.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

You looked for the following: (jp19830210930)<PR>

7 matching documents were found.

To see further result lists select a number from the JumpBar above.

Click on any of the Patent Numbers below to see the details of the patent

Basket	Patent Number	Title
0		
<input type="checkbox"/>	US5524049	Personal-servicing communication system
<input type="checkbox"/>	US5440625	Personal-servicing communication system
<input type="checkbox"/>	US5153906	Personal-servicing communication system
<input type="checkbox"/>	US4961217	Personal-servicing communication system
<input type="checkbox"/>	US4759056	Personal-servicing communication system
<input type="checkbox"/>	CA1222586	PERSONAL-SERVICING COMMUNICATION SYSTEM
<input type="checkbox"/>	JP60116259	AUTOMATIC DIAL OR ABBREVIATED DIAL SYSTEM

To refine your search, click on the icon in the menu bar

Data supplied from the esp@cenet database - I2

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A)

昭60-116259

⑫ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和60年(1985)6月22日

H 04 M 1/274

7251-5K

審査請求 有 発明の数 1 (全7頁)

⑭ 発明の名称 オートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式

⑮ 特 願 昭58-210930

⑯ 出 願 昭58(1983)11月11日

⑰ 発 明 者 秋 山 忠 彦 郡山市字船場向94番地 日豊通信工業株式会社

⑱ 出 願 人 日豊通信工業株式会社 郡山市字船場向94番地

⑲ 代 理 人 弁理士 高橋 明夫

明 細 書

1. 発明の名称 オートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式

2. 特許請求の範囲

(1) 個人情報を記憶する携帯形記憶装置と、該記憶装置から個人情報を読み取る通信端末装置を含み、該通信端末装置が読み取った個人情報に基づき、不特定の端末から、個人別のオートダイヤルまたは短縮ダイヤルサービスを提供することを特徴とするオートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式。

(2) 携帯形記憶装置には、個人識別コードを記憶し、通信端末装置に共通の記憶装置には前記個人識別コード毎に、オートダイヤル電話番号あるいは短縮ダイヤル番号を被呼番号に変換する変換テーブルを記憶したことを特徴とする1項記載のオートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式。

(3) 携帯形記憶装置にオートダイヤル電話番号または短縮ダイヤル番号と被呼番号の対応を記憶した1項記載のオートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式。

(4) 通信端末装置はソフト電鍵を備え、該ソフト電鍵をオートダイヤル電鍵として使うことを特徴とする1乃至3項記載のオートダイヤル方式。

3. 発明の詳細な説明

(発明の利用分野)

電話の接続等においては、10桁に近いダイヤルをする代りに、鈕を押すことによりワンタッチで相手に接続するオートダイヤルまたはワンタッチダイヤルや、2桁又は3桁の短縮された番号をダイヤルすることで相手に接続する短縮ダイヤルが実用化されている。本発明はこのオートダイヤルおよび短縮ダイヤル方式の改良にかかる。

(従来技術)

従来のオートダイヤル装置は、装置毎に電鍵と被呼者即ち被呼番号を設定するため、装置は個人用となり、他人のオートダイヤル装置は一般的には使えなかった。短縮ダイヤルは、電鍵の代りに2桁、3桁の桁数の少ない番号を用いるもので、一般の電話機を用いてサービスを受けられると言う汎用性がありながら、電話機毎に短縮コードと被呼番号の対応を設定するので、結局自分の短縮コ

ードは自分の電話機でしか使えないという制約があった。

(発明の目的)

本発明は、携帯形記憶装置に個人情報を記憶させておき、これをオートダイヤル装置、電話機等の通信端末装置に装着することによって個人情報を通信端末装置に入力し、携帯形記憶装置の所有者は、どの端末を使用しても自分が設定したオートダイヤルまたは短縮ダイヤルコードを使用できるようにするものである。言い換れば、従来の端末装置単位のサービスを個人単位のサービスに向上させることを目的とするものである。

(発明の概要)

本発明は、携帯形記憶装置、例えば磁気カードから記憶内容を読み取ることのできる通信端末装置、例えばオートダイヤル装置を用い、携帯形記憶装置に記憶された個人識別コード(IDコード)または、所有者が設定したオートダイヤルあるいは短縮ダイヤルデータを読み出すことによって、どの通信端末装置を用いても携帯形記憶装置の所有者が自分が設定した操作で相手を呼出すことを

可能にするものである。

(発明の実施例)

本発明をオートダイヤルに適用した場合の実施例について説明する。

第1図の電鍵ランプ部B、1-6のランプ部分は第3図1-6-1に示す如く、例えばドットマトリックス形の表示装置で構成され、これに対応して電鍵1-6-2が設けられた、いわゆるソフト電鍵とする。

磁気カード1-3には、IDコードが記憶されており、第1図の磁気カードリーダー1-4に挿入すると(第5-1図、501)、第2図の磁気カードリーダー1-4で内容を読み取り、制御装置1-13が出力インタフェース1-11を介してこれを受取って、記憶装置1-14に記憶させる(第5-1図、502)。

第3図の電鍵ランプ部B 1-6は、ソフト電鍵で多目的に使われているので、オートダイヤルとして使いたい時は、第1図電鍵ランプ部Aの電鍵の一つをオートダイヤル指定用(以下オートダイヤル指と呼ぶ)にしておきこれを押す(第5-1図、

503)。制御装置1-13(第2図)は出力インタフェース1-11を介してこれを識別し、記憶装置1-14に記憶されているIDコードを読み出し、オートダイヤル指が押されたという情報と共に線路インタフェース1-12を介して交換機へ転送する(第5-1図、504)。第4図の中央制御装置8は、電話機インタフェース2、信号受信分配装置7を介してこれを受信すると、記憶装置9内のオートダイヤルテーブルから該IDコードのオートダイヤル情報、即ち電鍵番号人名対応表を読み出し(第5-1図、505)、これをIDコードを受取ったルートで逆に電話機に転送する(第5-1図、506)。第2図の制御装置1-13は線路インタフェース1-12からこれを受信すると、人名コードを文字発生器1-15を用いて文字情報に変換し(第5-1図、507)、電鍵ランプ部Bの文字表示装置1-6-1(第3図)に電鍵との対応を保って表示する(第5-2図、508)。発呼者は電鍵ランプ部Bに表示された人名を見て、所望の相手の名前に対応して電鍵1-6-2(第3図)を押す(第5-2図、509)。制御装置1-13は押され

たオートダイヤル発信地の番号を識別すると、すでに記憶しているIDコードを記憶装置1-14から読み出し、両者を交換機へ転送する(第5-2図、510)。

第4図で中央制御装置8は記憶装置9から再度オートダイヤルテーブルを呼出し、当該IDコード、電鍵番号に対応した被呼番号を識別し(第5-2図、511)、得られた被呼番号を用いて被呼電話機と発呼電話機との接続を行なう(第5-2図、512)。

本実施例は、交換機側でオートダイヤルのテーブルを持っており、磁気カードはIDコードのみであるから、磁気カードの代りに出換が困難なさん孔カードを用いても、オートダイヤルの相手番号等の変更は容易であり、融通性に富む。しかし、公衆通信網の様な、全個レベルの拡がりを持っている場合は、いちいち所属局の交換機に登録されているオートダイヤルテーブルを読み出しにゆかねばならないので、磁気カードにオートダイヤルテーブルを書込んだ方が現実的となる。

即ち、磁気カードには、オートダイヤル電鍵の

番号と相手の名前および電話番号の対応を記録しておき、通信端末装置がこれを読み出してソフト電話機の電鍵番号に対応した表示装置に名前を表示し、電鍵を押したことにより、対応電話番号を線路に送出する。この方式では通話機は直接関与しないので、本機能を有する端末装置を設ければ、個人別のオートダイヤルサービスが可能になると言う汎用性がある。

なお、公衆通信網用として全国に使用する場合は、磁気カードには市外番号を含む全市を記憶させる一方、通信端末装置には所属局の市外番号を記憶させておき、磁気カードから読み出した市外番号が通信端末装置が記憶している自局の市外番号と一致した時は、市外番号をスキップして、市内局番以降をダイヤル信号として送出する必要がある。

本実施例は、第3図に示す様にオートダイヤル用の電鍵が20個の場合で、20以内の相手を登録できるが、20以上の相手を登録したい時は、第1図の電鍵ランプ盤A 1-5の電鍵の1つをページ切替用として使用し、該電鍵を押すことによって次

の20人の名前に切替るよう構成しておけば、登録できる相手の数は、通信端末装置のハードウェアには無関係となり、磁気カードの記憶容量によって制限を受けるだけになる。

以上は無帯形記憶装置に磁気カードを用いた場合について説明したが、磁気カードに限定されるものではなく、電子メモリーカード、光メモリーカード、ゼムロク、データバンク、電子メモ等の名称で販売されている複合電卓の様なものでも良い。

本実施例は、文字表示装置を備えたソフト電話機を用いた場合を説明したが、例えばカードに電鍵位置と人名の対応を表示しておき、これを見て所望電鍵位置を識別する様にしておけば、電鍵のみが選択的に配置されていれば良い。

オートダイヤルの代りに短縮ダイヤルを利用する場合にも、対応電鍵の代りに数値のダイヤルを用いるだけであるから、本質的には何の変わりもなく、そのまま適用できる。

(発明の効果)

本発明は、電鍵あるいは短縮番号と相手番号の対応が固定していた従来のオートダイヤルある

いは短縮ダイヤルと異なり、個人に属する情報は汎用形記憶装置に記憶しておくので、前記汎用形記憶装置を持ち歩くだけで、自分のオートダイヤル装置または電話機を持ち歩いているのと同じ便利さで、オートダイヤルあるいは短縮ダイヤルサービスを利用でき、その便利さは非常に大きい。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す電話機で、

- 1・・・電話機本体
- 1-1・・・ハンドセット
- 1-2・・・押釦ダイヤル
- 1-3・・・磁気カード
- 1-4・・・磁気カードリーダー
- 1-5・・・電鍵ランプ盤A
- 1-6・・・電鍵ランプ盤B
- 1-7・・・表示装置

を示す。

第2図は第1図に示す電話機のブロック構成図で、

- 1-2・・・押釦ダイヤル
- 1-5・・・電鍵ランプ盤A

1-6・・・電鍵ランプ盤B

1-9・・・送話器(ハンドセット1-1内に装着)

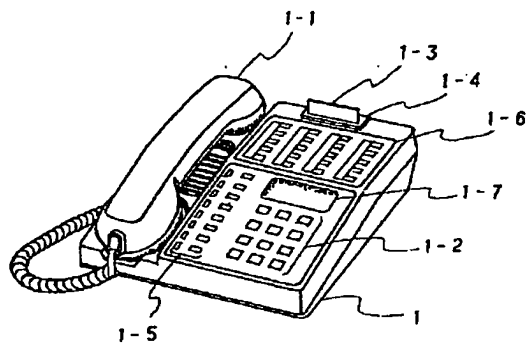
1-10・・・送話器(ハンドセット1-1内に装着)

第3図は第1図の電鍵ランプ盤B 1-6の詳細図、第4図は本発明の一実施例を示す時分割的内外交換機のブロック構成図で、1は電話機を示す。

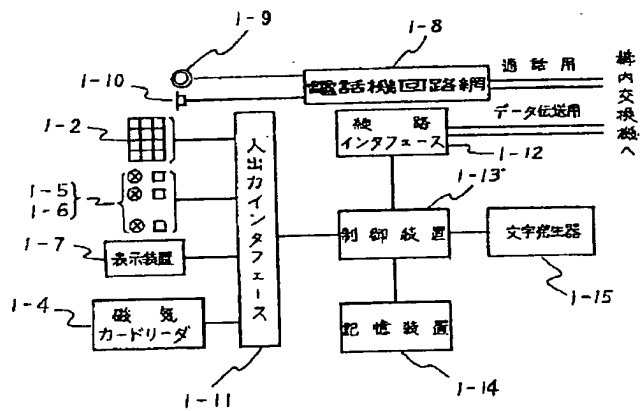
第5-1図及び第5-2図は、オートダイヤルの動作状態を表わすフローチャートを示す。

代理人 弁護士 高橋 明

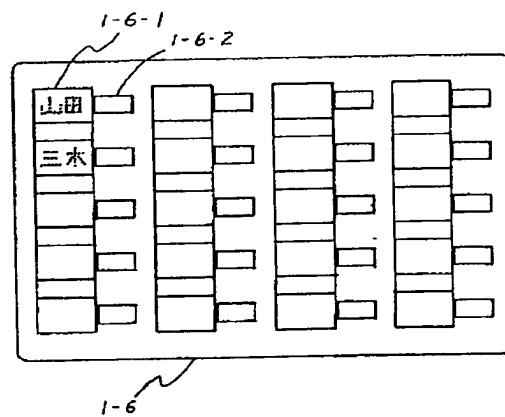




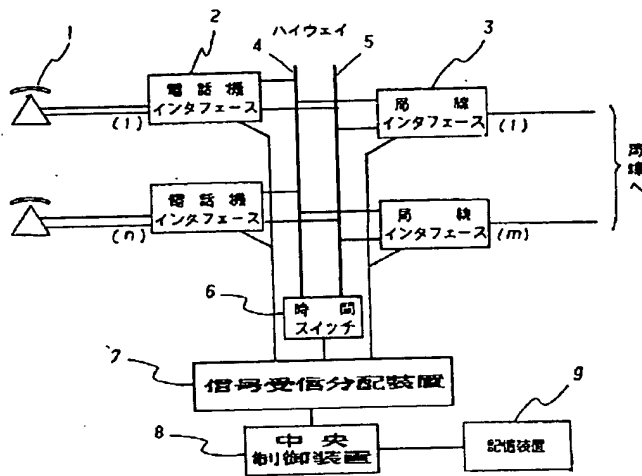
第1図



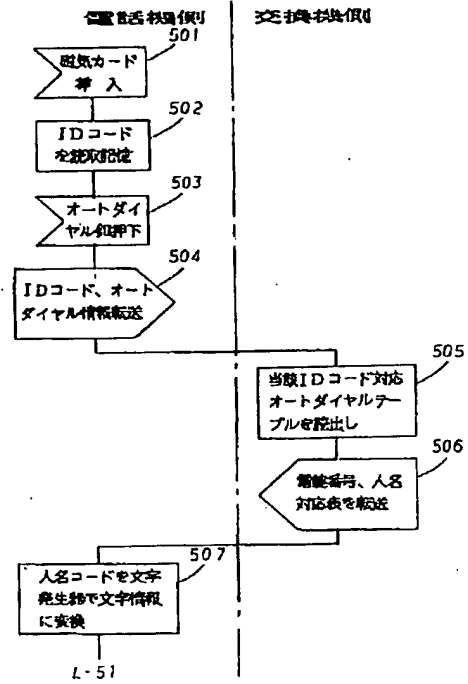
第2図



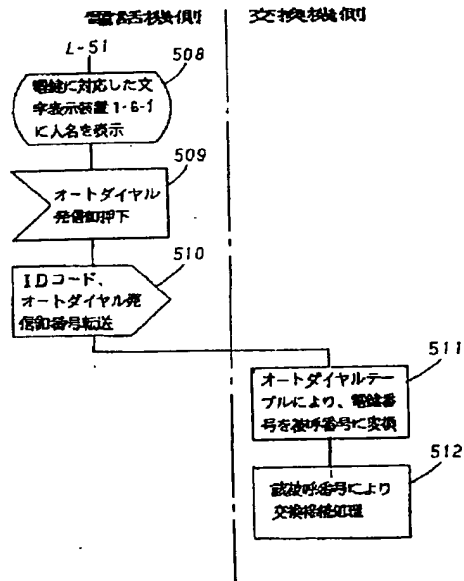
第3図



第4図



第5-1図



第5-2図

手続補正書 (自発)

昭和 59 年 9 月 21 日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示
昭和58年特許願第 210830 号
2. 発明の名称
オートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
〒963
住所 福島県郡山市字船場向94番地
名称 日立通信工業株式会社
代表者 高橋 晃
4. 代理人
〒100
住所 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
株式会社 日立製作所内
電話東京 212-1111 (大代表)
氏名 (6189) 弁護士 高橋 明夫
5. 補正の対象
明細書の「発明の詳細な説明」の欄、
および「特許請求の範囲」の欄。
6. 補正の内容
別紙の通り。

特開昭60-116259 (6)

1. 明細書第3頁第8行目の初めに「者は、・・・」とあるのを「者が、・・・」に訂正する。
2. 明細書第7頁第9行目に「・・・全国に使用する・・・」とあるのを「・・・全国的に使用する・・・」に訂正する。
3. 明細書第10頁第4行目に「・・・送話器・・・」とあるのを「・・・受話器・・・」に訂正する。

以上

特許請求の範囲

- (1) 個人情報を記憶する携帯形記憶装置と、該記憶装置から個人情報を読み取る通信端末装置を含み、該通信端末装置が読み取った個人情報に基づき、不特定の端末から、個人別のオートダイヤルまたは短縮ダイヤルサービスを提供することを特徴とするオートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式。
- (2) 携帯形記憶装置には、個人認識コードを記憶し、通信端末装置に共通の記憶装置には、前記個人認識コード毎に、オートダイヤル電話番号あるいは短縮ダイヤル番号を被呼番号に変換する変換テーブルを記憶したことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のオートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式。
- (3) 携帯形記憶装置にオートダイヤル電話番号または短縮ダイヤル番号と被呼番号の対応を記憶したことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のオートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式。
- (4) 通信端末装置はソフト電鍵を備え、該ソフト電鍵をオートダイヤル電鍵として使うことを特徴と

する特許請求の範囲第1項乃至3項記載のオートダイヤル方式。

手続補正書

昭和 60 年 1 月 14 日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 昭和58年特許願第 210930 号
2. 発明の名称 オートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
〒963
福島県郡山市字船場向94番地
住 所
名 称
日登通信工業株式会社
代表者 高 橋 晃
4. 代 理 人
居 所
〒100
東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
株式会社 日立製作所内
電話東京 212-1111 (大代表)
氏 名
(6189) 弁理士 高 橋 明 夫
5. 補正命令の日付 昭和58年12月18日 (発送日)
6. 補正の対象 昭和59年9月21日付提出の手続補正書の補正の対象の欄
7. 補正の内容 別紙の通り。

特開特60-116259 (7) 手続補正書 (自発)

昭和59年 9 月 21 日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 昭和58年特許願第 210930 号
2. 発明の名称 オートダイヤルまたは短縮ダイヤル方式
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
〒963
福島県郡山市字船場向94番地
住 所
名 称
日登通信工業株式会社
代表者 高 橋 晃
4. 代 理 人
居 所
〒100
東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
株式会社 日立製作所内
電話東京 212-1111 (大代表)
氏 名
(6189) 弁理士 高 橋 明 夫
5. 補正の対象 明細書の「発明の詳細な説明」の欄、
「図面の簡単な説明」の欄および「特
許請求の範囲」の欄。
6. 補正の内容 別紙の通り。